

平成 29 年度 教員免許状更新講習 受講者募集要項



<受講までの流れ>

①	ホームページから受講申込みをする。 申込者情報（連絡先・勤務校など）・受講希望講習を入力し、送信する。 →【更新講習受講申込み確認メール】が届く。
②	申込受付期間終了後、【受講可否通知（メール）】を受け取る。 受講可の場合、メールと共に送られてくる申込み関係書類を印刷・記入する。 なお、受講可否通知メールは4月12日（水）頃に送信する予定です。 ※申込受付期間終了時点で定員を超える場合は抽選となります。
③	提出準備1： 受講申込書に、所属長等の証明を受ける。
④	提出準備2： 受講料振込書で受講料を振り込み、受講料振込証明書を受講料振込証明書台紙に貼り付ける。
⑤	受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを本学担当事務局宛に郵送する。
⑥	【手続き完了通知・受講証（郵送）】を受け取る。 受講証に証明写真を貼付する。 ※事前課題がある講習を受講する場合は、課題内容を同送します。
⑦	事前課題がある講習を受講する場合は、課題を実施して指定された期日までに提出する。
⑧	講習を受講。

※申込み方法の詳細は p4-6 に記載しています。／認定試験については p6 に記載しています。

目 次

1.	教員免許状更新講習の開設趣旨	2
2.	受講対象者	2
3.	講習一覧.....	3
4.	募集人員.....	3
5.	申込み方法	4
(1)	申込受付期間.....	4
(2)	申込み手順	4
(3)	受講料	5
(4)	受講料納入方法.....	6
6.	受講に際して	6
7.	認定試験について	6
(1)	認定方法.....	6
(2)	認定結果の通知.....	6
8.	教員免許状更新講習受講者評価書について.....	7
9.	個人情報の取り扱いについて.....	7
10.	その他	7
(1)	連絡方法について	7
(2)	写真などの撮影について	7
(3)	昼食について.....	7
(4)	喫煙について.....	7
(5)	自家用車での来学について.....	7
(6)	講習の中止及び実施時間変更について	7
(7)	法定伝染病により受講ができない場合について	8
(8)	傷害保険について	8
(9)	受講上支援等を必要とされる方について.....	8
11.	問い合わせ先	8
12.	講習スケジュール.....	9
13.	本学アクセスマップ	11
14.	講習シラバス	12

1. 教員免許状更新講習の開設趣旨

平成 21 年 4 月 1 日より教員免許状更新制が導入され、教職課程を有する大学の責務として、また、社会の要請に応じることを目的として、本学において教員免許状更新講習を開設するものです。

2. 受講対象者

受講対象者は、普通免許状又は特別免許状を有する方で、以下に該当する方です。

- ① 現職教員（校長、副校長、教頭を含む。但し、指導改善研修中の方を除く）
- ② 教員採用内定者
- ③ 教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用（または非常勤）教員リストに登載されている方
- ④ 過去に教員として勤務した経験のある方
- ⑤ 認定こども園で勤務する保育士
- ⑥ 認可保育所で勤務する保育士
- ⑦ 幼稚園を設置する者が設置する認可外保育施設で勤務している保育士

上述の①～⑦に該当する方の中で**今年度の受講対象者**となるのは、次の生年月日に該当する方もしくは、修了確認期限の延期申請をしており、今年度本学で開講する更新講習の日程が延期後の受講期間に該当する方です。

詳細は文部科学省ホームページで確認してください。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm)

□ 生年月日

生年月日	更新講習の受講期間	終了確認期間
昭和 58 年 4 月 2 日～昭和 59 年 4 月 1 日生 昭和 48 年 4 月 2 日～昭和 49 年 4 月 1 日生 昭和 38 年 4 月 2 日～昭和 39 年 4 月 1 日生	平成 31 年 1 月 31 日 まで	平成 31 年 3 月 31 日 まで
昭和 57 年 4 月 2 日～昭和 58 年 4 月 1 日生 昭和 47 年 4 月 2 日～昭和 48 年 4 月 1 日生 昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 38 年 4 月 1 日生	平成 30 年 1 月 31 日 まで	平成 30 年 3 月 31 日 まで

3. 講習一覽

領域	講習名		主な受講対象者	開設日
必修 (6時間)	【A】	最新の教育動向と子ども理解	全教員	8月1日 (火)
選択必修 (6時間)	【B】	組織的対応の必要性和危機管理上の課題	<学校種> 幼・小・中・高・特支 <免許職種、教科等> 特定しない <職務経験等> 特定しない	8月2日 (水)
選択 (各6時間)	【C1】	カウンセリングと教員	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月3日 (木)
	【C2】	情報メディアと学校図書館	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月3日 (木)
	【C3】	児童生徒の理解に役立つ社会心理学	<学校種> 幼・小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月4日 (金)
	【C4】	持続可能な社会をめざす環境教育	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月5日 (土)
	【C5】	情報通信技術と教育	<学校種> 幼・小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月5日 (土)

※開講日が同じ講習は重複して受講できません。

※選択領域講習において、養護教諭、栄養教諭の受講は受け付けることができません。

4. 募集人員

【必修領域講習】50名 【選択必修領域講習】50名 【選択領域講習】各50名

5. 申込み方法

(1) 申込受付期間

申込受付期間は、必修領域講習・選択必修領域講習・選択領域講習とも以下のとおりとなります。

申込受付期間	平成 29 年 3 月 21 日（火）9 時 00 分～平成 29 年 4 月 6 日（木）17 時 00 分まで
--------	---

* 追加募集について

第一次締切日以降の募集がある場合は、5 月 1 日（月）9 時 00 分からホームページ上で募集をします。

(2) 申込み手順

受講申込みは、本学公式ホームページのトップページからリンクしている、教員免許状更新講習サイト (<http://www.osaka-gu.ac.jp/events/2017/08/koushin29>) から申請し、以下に示す各手続きを行ってください。

なお、申込受付期間終了の時点で定員を超えている講習は抽選により受講者を決定します。

ただし、次の方については受付を優先します。

- ・ 本学併設校の教職員（非常勤講師を含む）
- ・ 本学卒業生（事前連絡が必要）

また、各講習とも申込者が 5 名に満たない場合は開催を中止することがあります。

① ホームページから受講申込みをする

教員免許状更新講習サイトにアクセスして、申込フォームから受講申込みを行ってください。

申込者情報を入力する。

申込フォームの各項目を漏れなく入力してください。

② 申込受付期間終了後、【受講可否通知（メール）】を受け取る

受講可の場合、メールと共に送られてくる申込み書類を印刷・記入する。

申込受付期間終了後、本学担当事務局より、【受講可否通知メール】が届きます。受講可能な場合、申込書類（受講申込書／受講料振込用紙／受講料振込証明書貼付台紙／事前アンケート）を併せてお送りします。これらの書類を印刷・記入し、それぞれ提出準備を行ってください。

なお、受講可否通知メールは 4 月 12 日（水）頃に送信する予定です。

受講申込書（A4 サイズ・両面印刷）

受講申込みのための情報を記入してください。手書きでも、Word で直接入力いただいても結構です。また、正面・上半身・脱帽・縦 4cm×横 3cm、3 ヶ月以内に撮影した証明写真（裏面に氏名記入）を貼付してください。

受講料振込用紙

受講料を振り込む際にご利用ください。

□ 受講料振込証明書貼付台紙

受講料を振り込んだ際に受け取った受講料振込証明書を貼り付ける台紙です。
氏名等を記入してご提出ください。

□ 事前アンケート（課題意識調査）

受講者の皆様のニーズおよび学習動機を本学が把握するとともに、皆様ご自身が、これまでの教職経験を振り返る契機とすることを目的とした事前アンケートですので、必ずご提出ください。
なお、必ずしもご希望にお答えできない場合もあることをご了承ください。

③ 提出のための準備-1

□ 受講申込書に、所属長等の証明を受ける。

写真貼付、記入が済んだ受講申込書に、所属長の職名・氏名を記入のうえ、証明印（公印）を押印してください。

④ 提出のための準備-2

□ 受講料振込用紙で受講料を振り込み、受講料振込証明書を受講料振込証明書貼付台紙に貼り付ける。

受講料振込用紙を利用して受講料を振り込んでください。その際に受け取った受講料振込証明書を受講料振込証明書貼付台紙に貼付してください。

⑤ 受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを本学担当事務局に郵送する

提出準備の完了した、受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを以下の送付先まで郵送してください。

なお、これらの書類の提出期限は、4月26日（水）（消印有効）です。期限厳守にご協力をお願いします。

送付先：〒564-8511 吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号
大阪学院大学 教務課 教員免許状更新講習担当

⑥ 【手続き完了通知（郵送）】が届く

手続きは以上です。郵送した書類に不備等がなければ【手続き完了通知】と受講証が届きます。受講証には証明写真を貼付してください。

なお、講習によっては、事前に提出していただく課題が提示されているものがあります。申し込んだ講習に事前課題がある場合は、手続き完了通知と同送しますので、定められた期日までに提出するようにしてください。

(3) 受講料

必修領域講習（6時間）	6,000円
選択必修領域講習（6時間）	6,000円
選択領域講習（各6時間）	各 6,000円

(4) 受講料納入方法

受講料納入の際には、必ず専用の振込用紙（メールに添付してあるもの）を利用して、4月26日（水）までに金融機関の窓口から振り込んでください。期日までに振り込まれなかった場合、受講申込みが無効となりますのでご注意ください。

なお、やむをえず ATM から振り込む場合は、必ず振込依頼書に記載されている入金コードと氏名（フリガナ）の順に打電して振込みを行い、振り込んだ際の利用明細書（コピー）を受講料振込証明書貼付台紙に貼付して提出してください。なお、振込手数料は申込者負担となります。予めご了承ください。

領収書は、改めて発行しませんので、振込領収書は各自で必ず保管しておいてください。また、受講申込みを万一キャンセルする場合、受講料の返金に当たって事務手数料（1,000円）がかかります。予めご了承ください。

6. 受講に際して

講習当日必要なものは以下のとおりです。（教材テキストは当日配付します。）

- 受講証（あらかじめ証明写真を貼付したもの）
- 筆記用具
- 上着など

（教室内は冷房がつかますので、温度調節ができる服装でお越しください）

7. 認定試験について

(1) 認定方法

講習履修の認定は、認定試験の成績ならびに出席の状況に基づいた評価によって行われます。それぞれの評価に関わる留意事項は次のとおりです。

出席

講習の認定には、受講する講習をすべて受講しなければなりません。遅刻や早退などの場合は認定されません。

認定試験

認定試験を実施します。試験の内容は受講された講習に基づいており、講習内容への理解確認を行います。これを受験されない場合は認定されません。また、不正行為があった場合も認定されません。

なお、修了認定については認定試験（ならびに事前課題等がある場合は提出された課題）の結果に基づき、「認定・不認定」で評価を行います。

(2) 認定結果の通知

各講習の認定試験の結果、認定基準に達した受講者には、9月下旬までに修了証明書もしくは履修証明書を郵送します。本発送を持って結果発表とします。

8. 教員免許状更新講習受講者評価書について

各講習日の認定試験終了後、今後の教員免許状更新講習の改善と更新講習に関する情報提供のために教員免許状更新講習受講者評価書の記入をお願いしています。履修認定に係る評価には一切影響ありませんのでご協力をお願いします。

9. 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の所有する個人情報の保護に関する法律」及び「大阪学院大学個人情報保護基本方針」に基づいて取り扱います。

受講申込書等に記載いただいた個人情報については、本学で実施する講習の目的以外には利用しませんが、都道府県教育委員会より履修認定に関する照会があった場合に限り情報を提供することがあります。

なお、いったん提出された書類は、事情に関わらず一切返却しません。

10. その他

(1) 連絡方法について

ご連絡いただいたメールアドレスに、公式ホームページ等でご連絡します。

また、申込みから受講修了まで数か月に渡ります。申込み手続き完了後、メールアドレスや住所などに変更が生じた場合は、できるだけ早い時点でご連絡ください。

(2) 写真などの撮影について

講習の状況を写真やビデオに記録し、ホームページ等に掲載することがあります。但し、個人を特定できるものではありません。ご了承願います。

(3) 昼食について

講習期間中、学生食堂の営業は予定しておりません。近隣にコンビニエンスストアや飲食店はありますが、事前にご準備いただくことをお勧めします。

(4) 喫煙について

学内は喫煙場所（体育館横の灰皿設置場所）を除き禁煙となっております。指定場所での喫煙にご協力をお願いします。

(5) 自家用車での来学について

本学では、学生の自家用車での通学を禁じていることから、十分な駐車場をご用意しておりません。公共の交通機関をご利用のうえお越しくください。

(6) 講習の中止及び実施時間変更について

鉄道の連休・自然災害等のため、やむを得ず講習を中止する場合があります。この場合、代替措置は行わず、受講料を全額返金します。

- ① 阪急電車・西日本旅客鉄道（大阪～京都間）のいずれかが、午前 6 時の時点で運

- 休している場合、講習を中止します。
- ② 大阪府・京都府南部・兵庫県南部のいずれかに暴風警報、特別警報が午前 6 時の時点で発令されている場合、講習を中止します。
 - ③ 自然災害や火災などにより、講習実施が難しいと判断される場合、講習を中止します。

なお、講習の中止を決定した場合は、受講者宛にメールで連絡します。

講習を中止した場合、その代替措置は一切取りません。また、それらによって生じた受講者の負担費用、その他個人的損害について、本学はその責任を一切負いません。

(7) 法定伝染病により受講ができない場合について

インフルエンザ等の感染症の場合など、本学が受講困難であると判断した場合は受講いただけませんので、予めご了解ください（判断が難しい場合は、本学教員免許状更新講習担当まで問い合わせてください）。なお、この場合、講習前、途中にかかわらず講習受講料は全額返金します。

(8) 傷害保険について

教員免許状更新講習の主催者として、教員免許状更新講習のための保険には加入しませんので、傷害保険等の加入は受講者各人の判断によりご対応願います。

(9) 受講上支援等を必要とされる方について

受講上支援等を必要とされる方は、申込みをする前に本学教員免許状更新講習担当までご相談ください。

11. 問い合わせ先

大阪学院大学教務課 教員免許状更新講習担当

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号

TEL (06)6381-8434 e-mail : koushin@ogu.ac.jp

*緊急を要する件については、メールでのお問い合わせはご遠慮いただき、電話でお問い合わせください。

12. 講習スケジュール

すべての講習日において、受付にて受講証（写真貼付のこと）によるご本人確認を行います。

受付は8：30から始めますので、講習開始時間までにお済ませください。

*講習の進度により講習順番、時間など変更が生じる場合があります。

【A】 必修領域講習（6時間）： 8/1（火） 9：00～17：15

時間	内容	講師
9：00～10：20	教職についての省察	杉山 伸一
10：20～10：30	休憩	
10：30～11：50	教育政策の動向と法令改正および世界の教育の動向	南部 潔
11：50～12：40	昼食	
12：40～13：40	通常の学級における特別支援教育の現状と課題	閑喜 美史
13：40～13：50	休憩	
13：50～14：50	子どもの発達に関する科学的知見と生活の変化に応じた指導	谷口 高士
14：50～15：00	休憩	
15：00～16：20	カウンセリングと子ども理解	安田 一之
16：20～16：30	休憩	
16：30～17：10	認定試験（解答時間30分）	
17：10～17：15	受講者評価書の記入	

【B】 選択必修領域講習（6時間）： 8/2（水） 9：00～17：00

時間	内容	講師
9：00～10：20	学校と保護者・地域のコミュニケーションと連携	谷口 高士
10：20～10：35	休憩	
10：35～11：55	学校と保護者・地域のコミュニケーションと連携	谷口 高士
11：55～12：55	昼食	
12：55～14：15	児童・生徒及び教職員の安全確保の方策	高田 裕文
14：15～14：30	休憩	
14：30～15：50	児童・生徒及び教職員の安全確保の方策	高田 裕文
15：50～16：05	休憩	
16：05～16：55	認定試験（解答時間 40 分）	
16：55～17：00	受講者評価書の記入	

【C1～C5】 選択領域講習（各 6 時間）： 8/3（木）～8/5（土） 9：00～17：00

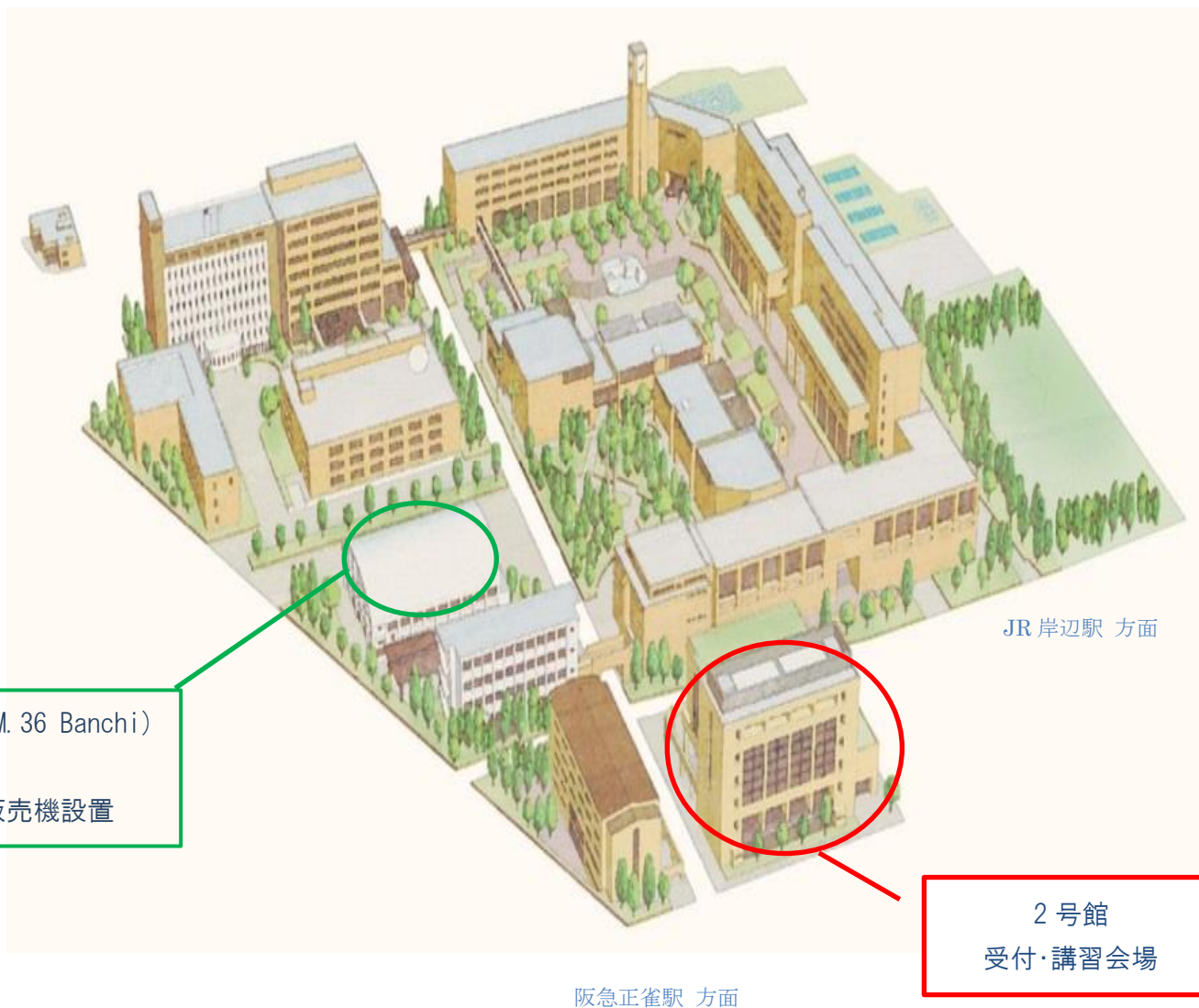
時間	内容
9：00～10：20	各選択講習
10：20～10：35	休憩
10：35～11：55	各選択講習
11：55～12：55	昼食
12：55～14：15	各選択講習
14：15～14：30	休憩
14：30～15：50	各選択講習
15：50～16：05	休憩
16：05～16：55	認定試験（解答時間 40 分）
16：55～17：00	受講者評価書の記入

13. 本学アクセスマップ

JR 岸辺駅または阪急正雀駅より徒歩5分
公式HPでご確認ください。

<http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

■ キャンパスマップ



14. 講習シラバス

【A】必修領域講習：最新の教育動向と子ども理解

【概要】

講習の概要	「国の教育政策や世界の教育の動向」、「教員としての子ども観、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）」、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。内容に応じて受講者同士の意見交換やワークショップを行い理解を深める。
認定試験	講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教材・参考資料	当日、配付します。
連絡事項	事前課題の有無については、各講習のシラバスに記述されています。なお、課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

項目	講習科目名	担当講師氏名（所属・役職）
教員としての子ども観、教育観等についての省察	教職についての省察	杉山 伸一 (商学部 講師)
国の教育政策や世界の教育の動向	教育政策の動向と法令改正 および世界の教育の動向	南部 潔 (大阪府教育センター カリキュラム開発部部長)
子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）	特別支援教育の推進 —インクルーシブ教育システムの構築をめざして—	閑喜 美史 (梅花女子大学心理こども学部心理学科 教授)
	子どもの発達に関する科学的知見と生活の変化に応じた指導	谷口 高士 (情報学部 教授)
子どもの生活の変化を踏まえた課題	カウンセリングと子ども理解	安田 一之 (商学部 教授)

【A】必修領域講習

開 講 日	平成29年8月1日(火)	講 習 時 間	9:00 - 10:20
時 間 数	80分	形 態	講義・グループ討論
教 室	02-B1-03 教室	事 前 課 題	な し

講習科目名	教職についての省察
講 師 名 (所属)	杉山 伸一 (商学部 講師)
講習概要	学校を巡る近年の状況変化について理解を深めるとともに、教員に求められる資質能力、教員としての子ども観・教育観等の視点から、教育現場での現状を振り返りながら、講義と情報交換を主とした討論を組み合わせた授業をおこなう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校を巡る近年の様々な状況変化について、客観的かつ具体的に理解することができる。 ・ 教員に対して、地域・保護者が何を求め、何を期待しているかを、これまでの個々の教育現場での実践を振り返り、現状と問題点を把握し改善策を考えることができる。 ・ 討論を通して、小・中・高のさまざまな教育現場での実践経験や課題を共有することにより、教員一人ひとりが自らの問題として自覚することができる。
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校を巡る近年の状況の変化 <ol style="list-style-type: none"> ① 近年の教育改革の動向と学校の状況変化の把握 ② 教師の指導力について～確かな学力向上のための授業改革を中心に～ ③ 学習や生活に関する児童・生徒の意識の変化、学校や教員に対する保護者の意識と期待 2. 専門職たる教員の役割と課題は何か？ <ol style="list-style-type: none"> ① 1での学校を巡る近年の状況の変化を踏まえて、適切な指導の在り方を受講者同士の情報交換・グループ討論を中心に行う。 ② 授業づくり、学級づくり、生徒指導、キャリア教育などの各テーマに分かれて勤務校での現状を中心に発表・討論を行い、専門職たる教員の役割と課題について考える。

【A】 必修領域講習

開 講 日	平成29年8月1日（火）	講 習 時 間	10：30 - 11：50
時 間 数	80分	形 態	講 義
教 室	02-B1-03 教室	事 前 課 題	な し

講習科目名	教育政策の動向と法令改正および世界の教育の動向
講 師 名 (所属)	南部 潔（大阪府教育センター カリキュラム開発部 部長）
講習概要	法令改正及び国の審議会の状況等および近年の世界の教育の特徴
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令改正、国の審議会の状況等を理解する。 ・ 近年の状況を踏まえた学力向上の取組について考える。 ・ 近年の世界的な教育の特徴を理解する。
講習内容	<p>法令改正、国の審議会の状況等</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもを取り巻く社会状況の動向を知る。 ② 次期学習指導要領等の方向性について理解する。 ③ 学力等にかかわる国・府の動きについて理解する。 ④ 近年の世界の特徴的な教育の考え方や取組を知る。

【A】 必修領域講習

開 講 日	平成29年8月1日(火)	講 習 時 間	12:40 - 13:40
時 間 数	60分	形 態	講 義
教 室	02-B1-03 教室	事 前 課 題	な し

講習科目名	特別支援教育の推進 ーインクルーシブ教育システムの構築をめざしてー
講 師 名 (所属)	閑喜 美史(梅花女子大学心理こども学部心理学科 教授) ※担当講師の所属が変更になりました。
講習概要	インクルーシブ教育システムの構築をめざす特別支援教育について国・府の動向を学ぶとともに、子ども一人一人の発達の段階や障がい等の状況に応じた指導・支援の在り方について考える。
到達目標	・インクルーシブ教育システムの構築に向けた国・府の動向を理解する。 ・子ども一人一人の教育ニーズに応じた指導・支援の在り方を理解する。
講習内容	①インクルーシブ教育システムの構築をめざす特別支援教育について ②多様な学びの場の確保にむけて ③高等学校における特別支援教育について ④子ども一人一人の発達をふまえた指導・支援について

【A】必修領域講習

開 講 日	平成29年8月1日(火)	講 習 時 間	13:50 - 14:50
時 間 数	60分	形 態	講 義
教 室	02-B1-03教室	事 前 課 題	あ り

講習科目名	子どもの発達に関する科学的知見と生活の変化に応じた指導
講 師 名 (所属)	谷口 高士(情報学部 教授)
講習概要	科学的視点に基づく発達の捉え方、ワーキングメモリと行動や学習上の問題との関係を中心とする子どもの発達に関する最新の科学的知見、子どもの生活の変化を理解し、それらを踏まえた具体的な指導法を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達を科学的に捉えることができる。 ・ ワーキングメモリの働きを中心に子どもの行動や学習上の問題を理解し対応を考えることができる。 ・ 子どもの生活の変化を理解し適切な指導を考えることができる。
講習内容	<p>子どもの発達と生活の変化の理解と指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科学的知見に基づいて発達を捉える ② ワーキングメモリの働きから学習や行動を理解する ③ 現代の子どもの生活上の問題点を認識する ④ グループでの情報交換とまとめ <p>※ 講義、受講者同士の情報交換や討論を組み合わせた形の講習をおこなう予定である。</p>
受講上の意注	短時間での情報交換を有意義なものにするために、各自子どもの学習や具体的な問題や疑問を考えてくる。それを踏まえて講義・情報交換に臨んでいただく。積極的な発言を望む。

【A】必修領域講習

開 講 日	平成29年8月1日（火）	講 習 時 間	15：00 - 16：20
時 間 数	80分	形 態	講 義
教 室	02-B1-03 教室	事 前 課 題	な し

講習科目名	カウンセリングと子ども理解
講 師 名 (所属)	安田 一之 (商学部 教授)
講習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングマインド(講義と実習) ・ 子どもの生活環境、大人的生活態度 ・ 教員のあり方についての省察
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングへの理解と実習を通して聴く態度を身に付ける ・ 子どもの生活環境の理解と大人のあり方の省察 ・ 教員のあり方の省察
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの理論と実際 (参加者相互のロール・プレイ) 2. 子どもの生活環境について <ol style="list-style-type: none"> ① 現代社会の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 核家族・少子化・IT 機器・家庭 ② 子どもの居場所は ③ 大人になれない (通過儀礼 initiation) 3. 大人の生活 <ol style="list-style-type: none"> ① 人間関係の希薄さ ② 目に見える価値への偏重 ③ 内的空虚感 4. 教員のあり方への省察

必修領域講習	〈試験時間〉 16：30—17：10 (解答時間 30 分間) 途中退室不可
認定試験	〈教 室〉 02-B1-03

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【B】選択必修領域講習：組織的対応の必要性と危機管理上の課題

【概要】

講習の概要	「様々な問題に対する組織的対応の必要性」、「学校における危機管理上の課題」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。内容に応じて受講者同士の意見交換やワークショップを行い理解を深める。
認定試験	講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教材・参考資料	当日、配付します。
連絡事項	事前課題の有無については、各講習のシラバスに記述されています。なお、課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

項目	講習科目名	担当講師氏名 (所属・役職)
様々な問題に対する組織的対応の必要性	学校と保護者・地域の コミュニケーションと連携	谷口 高士 (情報学部 教授)
学校における危機管理上の課題	児童・生徒及び教職員の 安全確保の方策	高田 裕文 (商学部 講師)

【B】 選択必修領域講習

開 講 日	平成29年8月2日(水)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55
時 間 数	160分	形 態	講 義
教 室	02-B1-03 教室	事前課題	あ り

講習科目名	学校と保護者・地域のコミュニケーションと連携
講 師 名 (所属)	谷口 高士(情報学部 教授)
講習概要	学校と保護者・地域との連携やコミュニケーション、学校評価と情報開示、および、子どもや保護者への対応の現状と問題点を把握し、よりよい取り組みを実践していくために、講義と情報交換を主とした討論を組み合わせた授業をおこなう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者・地域との連携やコミュニケーション、学校評価と情報開示について、他校や他地域の取り組みを知り実践を生かすことができる。 ・学校における子どもや保護者の問題の現状と課題を把握し、改善策を考えることができる。 ・上記に関して、教員一人ひとりが自らの問題として危機意識・当事者意識を自覚することができる。
講習内容	<p>学校と保護者・地域のコミュニケーションと連携</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子ども・保護者と学校との問題について ②学校と保護者・地域社会との連携の現状と今後の課題 ③保護者・地域による学校評価と情報開示の現状と今後の課題 ④四保幼小中高連携の現状と今後の課題 <p>※ 事前レポート、講義、受講者同士の情報交換や討論を組み合わせた形の講習をおこなう予定である。</p>

【B】 選択必修領域講習

開 講 日	平成29年8月2日(水)	講 習 時 間	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時 間 数	160分	形 態	講義・グループ討論
教 室	02-B1-03 教室	事 前 課 題	あ り

講 習 科 目 名	児童・生徒及び教職員の安全確保の方策
講 師 名 (所属)	高田 裕文(商学部 講師)
講 習 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外における児童・生徒及び教職員の安全確保の方策に関して、総合的に把握するための講義等を行う。 ・個別のケースを事例として取り上げ、危険等発生時対処要領に沿って概ね対応できる場合及び臨機応変に対応すべき場合について、情報交換等を行うことにより、実践的な理解を図る。
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理(安全確保)に必要な諸要素と全体像に関する理解を図ることによって、様々なケースへの適切な対応を事前にシミュレーションできる。 ・安全確保に関して、組織的に行う学校全体の活動の中で、自らの役割を理解し実践できる。 ・安全確保に関する心構えの深まり等を通して、今後、危機管理のための具体的方策に一層習熟・実践できる基盤づくりができる。
講 習 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1、「危機管理(安全確保)」の基本的かつ総合的な理解。 2、危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)の在り方。 3、児童生徒への安全教育の在り方。 4、各校で実践・想定している危機管理の具体的事例を材料に、起こりうるケースと対処法に関する検討・情報交換・発表とまとめ。 <p>【注】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受講者の講義等に対する状況を踏まえ、若干の内容変更を行う場合があります。 ② 受講者は、上記4での情報交換・事例研究で、どこでもやっているような内容ではなく、他に参考になり、かつ取り入れる価値のある体験例・積極的方策を披露・検討できるよう準備しておいてください。

選択必修領域講習	<試験時間> 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可
認 定 試 験	<教 室> 02-B1-03

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C】 選択領域講習

【概 要】

講 習 の 概 要	選択領域講習では、「カウンセリングと教員」「情報メディアと学校図書館」「児童生徒の理解に役立つ社会心理学」「持続可能な社会をめざす環境教育」「情報通信技術と教育」について、それぞれの分野の専門スタッフが講師を務める。
認 定 試 験	各講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教 材 ・ 参 考 資 料	当日、配付します。
連 絡 事 項	事前課題の有無については、各講習科目のシラバスに記述されています。なお、課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

講習科目名		担当講師氏名（所属・役職）
【C1】	カウンセリングと教員	安田 一之 (商学部 教授)
【C2】	情報メディアと学校図書館	和中 幹雄 (国際学部 教授)
【C3】	児童生徒の理解に役立つ社会心理学	田中 豊 (情報学部 教授)
【C4】	持続可能な社会をめざす環境教育	三輪 信哉 (国際学部 教授)
【C5】	情報通信技術と教育	西田 知博 (情報学部 准教授)

【C-1】 選択領域講習：カウンセリングと教員

開講日	平成29年8月3日(木)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義・ロールプレイ	
教室	02-B1-03 教室	事前課題	なし	

講習科目名	カウンセリングと教員
講師名 (所属)	安田 一之 (商学部 教授)
講習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングの考え方を理解し、教員にとっての意義を考える。 ・ カウンセリングの理論(主に来談者中心療法)を学び、ロール・プレイを通じてカウンセリングの実際を体験する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリング・マインドを身に付け、学校内外で生かせる。 ・ 自他の内面を考える習慣を身に付ける。
講習内容	<p>1) カウンセリングの考え方 (80分)</p> <p>A. カウンセリングとはどういうものか</p> <p>B. カウンセリングと教員</p> <p>C. カウンセリングの理論 ①</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>2) カウンセリングの考え方と事例 (80分)</p> <p>A. カウンセリングの理論 ②</p> <p>B. カウンセリングの事例</p> <p style="text-align: center;">〈昼 食〉</p> <p>3) カウンセリングの実習 ① (80分) ロール・プレイ</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>4) カウンセリングの実習 ② (80分) ロール・プレイ</p>

認定試験	<p>〈試験時間〉 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可</p> <p>〈教室〉 02-B1-03</p>
------	--

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-2】 選択領域講習：情報メディアと学校図書館

開講日	平成29年8月3日(木)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-B1-04 教室	事前課題	あり	

講習科目名	情報メディアと学校図書館
講師名 (所属)	和中 幹雄(国際学部 教授)
講習概要	情報環境が激変する中で、学校図書館が児童、生徒、教職員のために、学習・情報センター、教材センター、読書センターとして機能できるように、どのような資料・情報を収集すべきか、また、どのように整理、保存すべきか、そしてそれらの利用の支援をどのように行うべきかについての理解を深める。
到達目標	1. 学校図書館メディアについて理解する。 2. 学校図書館メディアの収集・保存について理解し、その具体的な方法を知る。 3. 学校図書館メディアの組織化の意義と概要を理解する。
講習内容	1. 学校図書館メディアの意義、種類と特性(80分) ① 学校図書館におけるメディアの教育的意義と役割 ② 学習環境の変化と学校図書館メディア ③ 学校図書館メディアの種類 ④ 学校図書館メディアの特性と学習への活用 〈休憩 15分〉 2. 学校図書館メディアの選択、収集、コレクションの構築・維持(80分) ① 学校図書館メディアの構築の基本 ② 学校図書館メディアの選択と収集方針 ③ 学校図書館メディアの選択のための情報源 ④ 学校図書館メディアの維持と発展 〈昼 食〉 3. 学校図書館メディアの組織化の意義(1)(80分) ① 学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス ② 学校図書館メディアの排架 ③ 日本十進分類法(NDC)の概要 〈休憩 15分〉 4. 学校図書館メディアの組織化の意義(2)(80分) ① 学校図書館メディアの組織化の新しい展開 ② OPACと目録法の意義 ③ 各種情報源とその活用
認定試験	〈試験時間〉16:05-16:55(解答時間40分間) 途中退室不可 〈教室〉02-B1-04

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-3】 選択領域講習：児童生徒の理解に役立つ社会心理学

開講日	平成29年8月4日（金）	講習時間	9：00 - 10：20 <15分休憩> 10：35 - 11：55	12：55 - 14：15 <15分休憩> 14：30 - 15：50
時間数	320分	形態	講義・グループ討論	
教室	02-B1-03 教室	事前課題	なし	

講習科目名	児童生徒の理解に役立つ社会心理学
講師名 (所属)	田中 豊 (情報学部 教授)
講習概要	社会心理学の研究成果の中から、児童生徒や教員の心理や行動、あるいはコミュニケーションの理解に役立つであろう内容について紹介すると共に、少人数のグループによるディスカッションや演習を実施し、講義内容について体験的に理解を深める。
到達目標	児童生徒や教員の人間関係やコミュニケーションに関する人間心理について理解を深めると共に、社会心理学的な分析方法やものの見方を修得する。また少人数のグループによる演習により、グループ演習やディスカッションを教育に用いることの効果やその意義についても理解を深める。
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の発達とコミュニケーション・他者の認知（80分） <ol style="list-style-type: none"> ①母子相互作用と愛着行動、教師の期待と子供の知的発達(ピグマリオン効果) ②印象形成、対人認知に影響を与える心理特性 ③演習1（自己紹介・ディスカッション） 〈休憩 15分〉 2. 言語以外のコミュニケーションの重要性・環境とコミュニケーション(80分) <ol style="list-style-type: none"> ①非言語コミュニケーションの分類と役割、個人空間(パーソナル・スペース) ②生活環境や教室環境の心理的影響 ③演習2（集団討議の効果） 〈昼 食〉 3. 原因の推定とやる気・みんなと同じ方向への圧力・教員や生徒の役割と内面化（80分） <ol style="list-style-type: none"> ①原因帰属と達成動機 ②同調 ③役割 ④演習3（ロールプレイ） 〈休憩 15分〉 3. 教室の人間関係の視覚化・男らしさ女らしさ・うわさ話の信憑性（80分） <ol style="list-style-type: none"> ①ソシオメトリー ②性役割 ③流言（うわさ） ④演習4（流言の変容・伝言ゲーム）

認定試験	〈試験時間〉16：05－16：55（解答時間40分間）途中退室不可 〈教室〉02-B1-03
------	---

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-4】 選択領域講習：持続可能な社会をめざす環境教育

開講日	平成29年8月5日(土)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-B1-03 教室	事前課題	あり	

講習科目名	持続可能な社会をめざす環境教育
講師名 (所属)	三輪 信哉 (国際学部 教授)
講習概要	環境教育の歴史と動向を知り、学校内での環境教育の展開について深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境の実態、環境教育の意義、歴史、動向に関する知識を深める。 ・ グループワークにより、環境に関連する参加型学習に関する授業案を作成する。 ・ 今後の学校における環境教育の展開について、理解を深め、企画力を高める。
講習内容	<p>1. 地球環境問題の現在までの変化と現状を知る (80分) (講義)</p> <p>① 近年の地球環境問題の現状を知り、未来の課題を深める。 〈休憩 15分〉</p> <p>2. 地球環境の将来と、今後の環境教育の重要性について (80分) (講義)</p> <p>① 今後の地球環境のありかた、方向性について理解を深める。</p> <p>② 環境教育がどのように取り組まれて現在に至っているか、日本における環境教育の現状について知る。 〈昼 食〉</p> <p>3. 学校での環境教育の実践例、取り組み内容の発表 (80分)</p> <p>① 本講習開始以前に実施する参加者対象のアンケートの結果を紹介し、実際に行っている特徴的な環境教育の取り組みについて参加者が報告する。</p> <p>② それをもとに学校における環境教育に関する課題や方向性について、グループ別にディスカッションをし、意見交換を行うことを通じてともに深めあう。 〈休憩 15分〉</p> <p>授業案の作成 (80分)</p> <p>環境教育を授業として実施する際の授業案を作成し、それを通じて実施する際の課題を話し合う。</p> <p>① グループに分かれて授業案を作成する。対象、テーマ、時間数、内容、シラバスなどを話し合い、各グループで作成した授業案について意見交換する。</p>

認定試験	<p><試験時間> 16:05—16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可</p> <p><教室> 02-B1-03</p>
------	--

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-5】 選択領域講習：情報通信技術と教育

開講日	平成29年8月5日(土)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-03-05 教室	事前課題	なし	

講習科目名	情報通信技術と教育
講師名 (所属)	西田 知博(情報学部 准教授)
講習概要	情報教育の現状と展望を解説した後、情報の科学的な理解を深めるための学習としてコンピュータを使わずコンピュータサイエンス(CS)を学ぶCSアンプラグドや、コンピュータの動作原理を体感するためのプログラミング学習について実習を交えて解説する。また、情報通信技術が子どもたちに及ぼす影響や注意点と指導のポイントについても紹介し、それに関するディスカッションも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報教育の現状を理解する ・ CSアンプラグドや初学者プログラミング環境を通じて、難しく思える情報科学の諸概念の学習が容易であることを体験する ・ 情報通信技術が学校に及ぼす影響に関して理解する
講習内容	<p>1. 情報教育の現状と今後の展望(80分)</p> <p>① 初等中等教育における情報教育の現状</p> <p>② 情報教育変革の方向性</p> <p>③ これから教えるべきことは</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>2. 情報の科学的な理解を進めるためのコンピュータを用いない学習(80分)</p> <p>① 情報科学を楽しく教える～CSアンプラグド</p> <p>② CSアンプラグドを用いたアクティビティ(実習)</p> <p style="text-align: center;">〈昼 食〉</p> <p>3. プログラミング教育(80分)</p> <p>① なぜプログラミング教育が必要か</p> <p>② プログラミング初学者のための学習環境</p> <p>③ 体験的プログラミング(実習)</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>4. 情報通信技術が及ぼす学校への影響と情報モラル教育(80分)</p> <p>① 学校を取り巻く情報通信ネットワークの現状</p> <p>② 子どもたちが利用するネットワーク上のコミュニケーションサービス 情報通信技術にまつわるトラブルと対処(ディスカッション)</p>

認定試験	<p>〈試験時間〉16:05-16:55(解答時間40分間) 途中退室不可</p> <p>〈教室〉02-03-05</p>
------	---

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。